イ読書

目利きが選ぶ今週の3冊

（★★★★★これを読まなくては損をする、★★★★読みごたえたっぷり、お薦め
★★★読みごたえあり、★★価格の価値はあり、★話題作だが、ピンとこなかった）

陣野俊史
批評家

最後に誉めるもの
川崎徹著

作家としての川崎徹は、新しい私小説を作り出しつつあるのではないか。17年前に亡くなった母親が不意に現われる。断片化した記憶と時間をめぐる佳品。（講談社・1800円）

★★★

郊外少年マリク
マブルーク・ラシュディ著

（集英社・1800円）

★★★★

海に降る雨
管啓次郎著

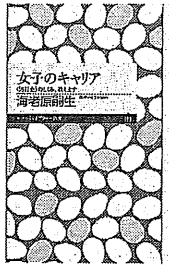
管さんの詩を読むと、脳の細胞のどこかが刺激されて覚醒する気がする。第3詩集となる本書も見事な詩を収める。何気ない風景、シンプルな言葉。幾度も読み返した。（左右社・1600円）

★★★★

中沢孝夫
福井県立大学地域経済研究所所長

女子のキャリア
海老原嗣生著

（ちくまプリマー新書・840円）



★★★★★

仕事と暮らしを取りもどす
遠藤公嗣ほか著

アメリカで働く人たちと同伴者による、貧困からの脱出のための新しい労働組織構築の営みを丹念に探った本である。「貧困大国」への挑戦であり、日本への含意が大きい。（岩波書店・1800円）

★★★★

感情労働シンドローム
岸本裕紀子著

「人を相手にした仕事」には「感情」がつきまとう。相手のために感情を「管理」すると溜まるのはストレスである。現代病の原因でもあるが、本書に納得する読者も多かろう。（PHP新書・760円）

★★★

野崎六助
評論家

南極風
笹本稜平著

山岳小説の興奮と法廷サスペンスの妙味。遭難事故に殺人罪を適用しようとする検察の「暴力」。背後に隠れる謀略に立ち向かう山男の情念が光る。結末には爽やかな風が吹く。（祥伝社・1800円）

★★★★

うそつき
戸松淳矩著

二つの顔を持つ被害者に沿って語られる二つのストーリー。組み合わせが秀逸だ。その合流地点に待ち受けている作者の「罠」。最高の嘘つきは作者か、それとも？（東京創元社・2000円）

★★★★

アルカトラズ幻想
島田荘司著

（文芸春秋・1900円）

★★★★